
先生

wann

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先生

【Nコード】

N3449H

【作者名】

Wann

【あらすじ】

恩師へのこの感情は、何といったらいいのでしょうか。感情の大小に違いはあれども、あなたも経験したことがあるかもしれない。

再会（前書き）

初めて書きました。

乱文、駄文お許しください。

どうなるのかもよくわかりません。

大きな心で読んでいただければ幸いです。

再会

あなたの年齢はもう 五十 になっていて、その響きは私の心臓を少し痛めつけた。

山崎祐一は高校の美術教師で、何だかんだ好きな先生の一人だった。まるで子供のような人で、授業中、作業している私に向かって、くだらない昔話を延々としていた。

聞いている暇はないので適当に相槌を打つ私に、
「聞いてんのか」
と文句をつける。

絵を描くことで生まれる何も考えない時間と、そのやりとりが心地よくて、

先生と二人、草原でスケッチしているような気分だった。
例え現実では1対40の一斉授業の最中であろうとも、そんなことは感じられないくらい、爽やかな時間だった。

この時間が永遠に続いたらいいのに
などとは思わずに、私は卒業し、大学生になった。

大学3年生の秋、それまで先生のことは何度も思い出し、何度も忘れていた。

友人に高校の文化祭に誘われたのをきっかけに、あの時間が再び色付きだして、

もはや文化祭は、どうでもよかった。
山崎祐一に、会いたかった。

先生は相変わらずプードルみたいな頭をしていて、相変わらずの細かい眼は、睨んでいるのか微笑んでいるのかよくわからない。

「お、久しぶり」

覚えていてくれた。

単純にうれしかった。

単純な私は美大に進み、先生と同じグラフィックデザインを専攻していた。

「10月末までの美術展、行ったか。」

「行ってないです。」

「行けよ。一緒に行くか。」

もちろんです。

美術展に行く日までのあまりに長すぎる1週間、

私は高校生の頃の記憶を辿り、先生の個人情報は何度も確認して過ごした。

確か、

先生には美人と噂の奥さんがいて、

顔に似合わず愛妻家で、

子供はいないけれど可愛い黒いポメラニアンがいて、

顔に似合わず毎朝先生が散歩をしている。

先生と私と友人と、知らないお兄さん2人と、合計5人で美術展巡りをした。

知らないお兄さんたちは先生の教え子だった。

人見知りで有名なこの私が、こんなにわけのわからないメンバーと、こんなに微妙な空気の中で、こんなに爽やかな時間を過ごしているとは、周囲の誰が気付くだろうか。

ミーハーそうな女子大学生が、いかにもアート系のお兄さん二人を差し置いて、

まさか五十のおっさんとの爽やかな時間を楽しんでいるとは、周囲の誰が気付くだろうか。

40人を消してしまう二人だから、4人を消すなんて容易かった。またこうして草原に来られるなんて、こんなに幸せでいいのじゃないか。

美術展の後、山崎祐一からメールがくるまでのあまりに長すぎる2週間、

私は、異常なくらい携帯のメールチェックばかりして過ごした。

今日の7時から元美術部の安川と荒井と飲むけど、来るか。

安川ちゃんと荒井くんかぁ、懐かしいー。8時くらいに行けると思います。大丈夫ですか

8時に新宿東口交番前ね。

はい。

8時新宿東口交番前に、山崎祐一の赤い笑顔。

「わざわざ来てもらってすいません。」

「おうー。飲むぞ。」

ソファ一席の先生の隣に坐って、一生懸命先生を酔っ払わせる。

先生は二時間半ずっと、私にぴったりと寄り添った。

そうだ、先生はいつも、気軽に生徒に触る人だった。

寂しがりやなんじゃないかと思う。

10分おきくらいに安川くんと荒井くんを消させてもらって、大人になった私たちは、夕暮れの海で寄り添った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3449h/>

先生

2010年12月10日01時58分発行